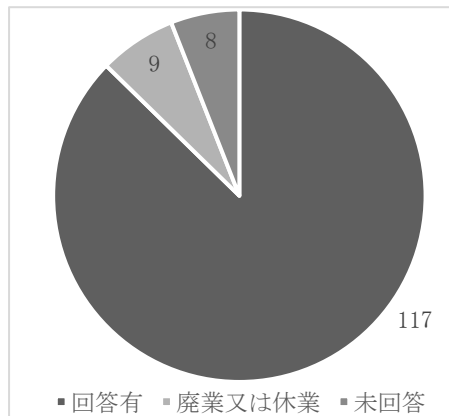


事業の実施状況

	検討会	桑園調査・データベース化	技術アドバイザー派遣	新たなビジネス展開				需要拡大	
				WG	産地判別	GOTS認証	少量多品目流通	応援団・イベント	広報資料
4月									
5月		調査の企画	アドバイザー追加 愛媛県研修会 (9日)＜蚕＞		FAMICに依頼				
6月	第1回検討会 (3日)	調査の実施(27日)			FAMICと契約締結(30日)	認証機関に依頼	工芸作家等に依頼		
7月				第1回WG (11日)	資材送付 (22日)	第1回検討会 (17日)	織物業者 打合せ(9日)		広報資料の 作成
8月		調査締切(15日)	山形・福島 (27、28日)＜桑＞			報告書受領 (26日)	生地見本 作成	応援団募集チラシ 検討 イベント企画検討	「カイコからの おくりもの」 修正原稿作成
9月		二次調査締切(5日)	宮城県研修 会(13日)＜蚕＞					イベント会場決定	
10月		データ ベース化	栃木(1日)＜桑＞ 埼玉(8日)＜桑＞ 福井(11日)＜蚕＞ 岐阜(14、15日)＜桑＞ 茨城(15、23日)＜蚕＞ 愛媛(23、24日)＜桑＞	第2回WG (6日)	中間報告			会員募集	
11月	第2回検討会 (13日)						東京テキスタイル スコープ [®] に出展 (12～14日)		
12月							工芸作家等 へ生地見本 提示		
1月									
2月				第3回WG	分析結果				
3月	第3回検討会							「蚕糸の日」イベ ント(13日)	

桑園実態調査

1. 調査票回収率 87% 134件依頼し、117件回答



2. 調査票：別添参照

3. 調査結果抜粋

(1) 桑園面積総計 (a)

桑園面積 完成	桑園面積 未成	桑園面積 合計	桑園 うち借地	桑園 うち機械収穫
9,939.0	298.5	10,237.5	4,158.5	1,056.0

(2) 改植の意向 (複数回答)

改植・新植の予定がある	7	6.2%
改植・新植したいが桑苗の入手が難しい	8	7.1%
改植・新植したいが抜根や桑園造成の費用がかかるため難しい	17	15.0%
改植・新植したいが成園になるまで時間がかかるため難しい	9	8.0%
改植・新植の予定はない	63	55.8%
その他()	9	8.0%
その他の意見	獣害被害により新植できない／株下げ／基部の整備と株下げ／抜根予定／枯れたところに随時植替えしている／折れた所に随時改植している／抜け株のみ挿木	

(3) 桑園管理に関する問題点 (複数回答)

労働力が不足している	42	16.3%
肥料が高騰し施肥量が不足している	43	16.7%
難防除雑草が増えている	53	20.5%
施肥・除草機械が高価で購入できない	19	7.4%
機械化に対応した圃場になっていない	24	9.3%
害虫被害が増えている	35	13.6%
鳥獣被害が増えている	33	12.8%
その他()	9	3.5%
その他の意見	除草作業全般／竹の侵入／生育／桑の葉の有効利用を進めたい／蜂・蜂の巣に困っている／カラスがどどめを食べて色々なところにふんをするらしくいろいろなところに桑が生えている／気候問題／凍霜害／高齢化	
難防除雑草の例	アレチノウリ、マルバコウ、オヒシバ、ヤブガラシ、カラスウリ	
害虫被害の例	キボシカミキリ、アメリカシロヒトリ、クワキジラミ、スキムシ、スケバハゴロモ、クワノメイガ	
鳥獣被害の例	シカ、カモシカ	

(4) その他ご意見・ご要望等 (桑関係抜粋)

・カモシカによる食害が多く、新植した桑が被害にあっている。市の補助金で電気柵を活用しているが面積に対し補助金額が少なく、すべての桑園に対策できていない。

(岩手県)

- ・肥料、農薬、燃料代などの生産費用が2～3倍に高騰している。(栃木県)
- ・害虫に対し、効果的な殺虫剤がない。(栃木県)
- ・近年、高温による影響で管理作業が大変だ。(栃木県)
- ・除草剤(バスター)が高くてこの高温度に草退治やりたくても使用ができない。(群馬県)
- ・アメリカシロヒトリへの効果的な薬剤の検証、比較のデータが欲しい。(群馬県)
- ・購入できる桑の種類が限定されているので希望する桑園造成が困難。雑草防除の労力が厳しい。害虫が年々増加している傾向に感じている。(群馬県)
- ・養蚕への理解が少なくなっており、桑園の殺虫剤被害が懸念される。(群馬県)
- ・周囲が野菜栽培等で薬害が心配。(群馬県)

・上簇後、残した残渣の処分場が見当たらない（焼却処分も困難）。桑の木が老木なため、桑の生育が悪く、葉が小さく、薄い。除草剤の散布回数が増えた。剪定した枝の処分に労力がかかる。春蚕期は、桑切り作業に時間を要し桑付け作業に追いつかない。

（埼玉県）

・桑苗確保のため、挿し木の指導をお願いしたい。（埼玉県）

・若木（10年未満）カミキリムシの被害が多く冬場に行える農薬情報が知りたい。（東京都）

・鹿の害が酷く、生産が安定しない。畑は点在してるため柵の費用が多くかかる。補助金を活用しても費用と維持費が多くかかり合わない。鹿がまだこない平地に新植し、山側の被害の多い畑は放棄することを検討している。柵以外の最先端の対策はないか？（山梨県）

・近年の高温障害により桑の保管（給桑までの保管）が難しい。（岐阜県）

・給仕後の、枝の処理が焼却以外ないため、即座に処理できず、場所を取る。特定の害虫に効果のある虫（天敵）等が手に入りにくい。（岐阜県）

・一年間を通した『桑園管理スケジュール表』マニュアルなどあれば欲しい。（岐阜県）

・昨今の気候変動（高温、多雨）で草刈りに係る時間や人件費が増大している。剪定後の桑の枝の処理に毎度頭を悩ませている。養蚕後の残渣を肥料にしたいが、残渣処理からの施肥について良い方法があれば知りたい。（宮崎県）

養蚕農家桑園調査票

R7桑調番号

R6農調番号

既に記載済の箇所と相違がありましたら、お手数ですが斜線を引いてご記入をお願いいたします。

農家氏名 企業等名	
代表者名（役職）	（ ）
担当者名（役職）	（ ）

生年月日 西暦

※企業等の場合は開始年月日をご記入ください。

年齢/年数

R7. 4. 1現在

※企業等の場合は養蚕事業年数をご記入ください。

所在地	〒	
電話番号		
メールアドレス		

J A名			
調査担当者	氏名		連絡先

（注）本調査票については、本会の内部資料とし、個人や企業の個別の情報が漏れないよう、その取扱いに十分注意いたします。本調査のとりまとめ結果については、今後の蚕糸業の振興を図るための検討資料として使用したり、HPで公開することがあります。

1

桑園等経営面積

（単位：a）

桑 園					水田	普通畑	樹園地	山林	合計	備考
完成	未成	計	うち 借地	うち 機械収穫						

桑園の状況

NO.	耕作地番	面積	自作地・ 借地の別		植栽経過年区分							近年被害があった 項目に○を記載				
			自作地	借地	未成	五年未満	十年未満	十五年未満	三十年未満	三十年以上	品種	虫害	鳥獣害	病害	凍霜害	農薬被害
記入例	〇〇〇字△△123-1番	30 a		○				○			はやてさかり	○	○			
1		a														
2		a														
3		a														
4		a														
5		a														
6		a														
7		a														
8		a														
9		a														

2

NO.	耕作地番	面積	自作地・借地の別		植栽経過年区分						品種	近年被害があった項目に○を記載				
			自作地	借地	未成	五年未満	十年未満	十五年未満	三十年未満	三十年以上		虫害	鳥獣害	病害	凍霜害	農薬被害
10		a														
11		a														
12		a														
13		a														
14		a														
15		a														
16		a														
17		a														

桑園改植・新植の意向

該当がある場合○を記載	
	改植・新植したいが桑苗の入手が難しい
	改植・新植したいが抜根や桑園造成の費用がかかるため難しい
	改植・新植したいが成園になるまで時間がかかるため難しい
	改植・新植の予定はない
	その他()

今後の桑園整備の計画等

上記NO.のうち整備計画があるものを記載		
NO.	整備時期や内容	
例 3～5	2026年2月ごろ改植	

3

桑園管理に関する問題点

該当がある場合○を記載		
	労働力が不足している	機械化に対応した圃場になっていない
	肥料が高騰し施肥量が不足している	害虫被害が増えている
	難防除雑草が増えている	鳥獣被害が増えている
	施肥・除草機械が高価で購入できない	その他()

その他ご意見・ご要望等をご記入ください。

技術アドバイザーの派遣

○技術アドバイザーの役割

地域の養蚕指導者が減少している中で産地の技術指導体制を補完するため、蚕糸科学技術研究所の職員を技術アドバイザーとして養蚕農家等に派遣し、課題を把握するとともに可能な対応策を助言する。

○登録技術アドバイザーの登録

<追加登録者>（5月8日常勤理事会決定）

氏 名	役 職	専門分野
小山朗夫	蚕糸専門員	桑栽培
鶴井裕治	主任技師	養蚕

<既登録者>

氏 名	役 職	専門分野
持田裕司	上席研究員	養蚕
池嶋智美	主任研究員	養蚕
竹村洋子	主任研究員	養蚕
野澤瑞佳	主任研究員	蚕病
松川 武	主任技師	桑栽培
赤井雅志	主任技師	桑栽培

○派遣実績

<蚕室消毒・蚕病対策関係>

派遣日	派遣場所	助言内容等	技術アドバイザー
5月9日	愛媛県西予市	蚕室消毒の助言	野澤瑞佳
9月13日	宮城県登米市・南三陸町	蚕室消毒の助言	野澤瑞佳
10月11日	福井県福井市	遺作対策	野澤瑞佳
10月15日	茨城県石岡市	遺作対策	野澤瑞佳
10月23日	茨城県石岡市	遺作対策	野澤瑞佳

＜桑園管理関係＞

1. 目的

主要養蚕地域に桑園管理の専門家を派遣し、桑の病害の発生や桑園の管理状況に関する情報を収集するとともに、桑園管理に関する研修会を開催する。

2. 技術アドバイザー派遣状況

派遣日	派遣場所	助言内容等	技術アドバイザー
8月27日 ～28日	山形県新庄市及び福島県 川俣町、二本松市	桑園管理助言	小山朗夫 赤井雅志
10月1日	栃木県那須塩原市、小山 市	桑園管理指導	小山朗夫 赤井雅志
10月8日	埼玉県所沢市	桑園管理指導	小山朗夫 松川 武
10月14日 ～15日	岐阜県下呂市、美濃太田 市	桑園管理指導、 研修会	小山朗夫 松川 武
10月23日 ～24日	愛媛県西予市、大洲市	桑園管理指導	小山朗夫 赤井雅志

3. 参加者アンケート

研修効果を測定するため、研修会参加者にアンケート調査を行う。

令和 7 年度桑園実態調査中間報告書

蚕糸専門員 小山 朗夫

1. 期間、用務先及び調査軒数

2025.08.27～28	山形県及び福島県、4 軒
.10.01	栃木県、2 軒
.10.08	埼玉県、1 軒
.10.14～15	岐阜県、2 軒
.10.23～24	愛媛県、7 軒

2. 調査結果の概要

(1) 桑園の土地生産性が低いまま推移している原因

今回の桑園調査で見た限りでは、植付け後 30 年以上経過した株であっても、適切な管理が行われていれば、枝条数の減少、枝条伸長の停滞等はみられず、樹勢は良好に維持されているものと判断された。桑園の土地生産性が低いまま推移している原因は、桑園面積に対して蚕飼育量が少ないためであると考えられる。かつては 3 トン以上の繭を生産していた大規模養蚕農家でも、現在は 1 トン前後の生産にとどまっているため、桑園には余裕があり、収穫は年 1 回または無収穫という圃場もみられた。また、中～小規模養蚕農家でも労働力不足で蚕飼育量を減らしたり、養蚕を休止した農家の桑園を引き受けたりしているため、少ない面積の圃場から桑葉を目一杯収穫しているという状況はではなかった。

一方、新規養蚕農家あるいは先代からの引き継ぎが上手くいっていないと思われる農家では収穫方法、肥培管理法、株の仕立てなど、桑栽培技術に問題がみられることが多く、そのことが桑園の土地生産性だけでなく、労働生産性の低下を招いているケースも見られた。

(2) 病虫害の発生状況

近年は夏期の高温が続いているが、酷暑による桑の生育障害などの直接的な影響は今のところ認められていない。しかし、高温乾燥時に多発するクワアザミウマ等の吸汁性害虫の被害は全国的に発生しており、そのため初秋蚕期以降に葉が硬化することが多かった。クワノメイガの被害も広い範囲に見られたが、アメリカシロヒトリの発生は関東地方中心

であった。カミキリムシ類の被害については、各地でクワカミキリ幼虫の排糞跡がみられたものの、一時は大きな問題となっていたキボシカミキリの寄生はほとんど認められなかった。今回最も目立ったのは山形以外の全ての地域で観察された外来昆虫のチュウゴクアミガサハゴロモである。本虫は広食性の吸汁性昆虫であるが、国内に侵入が認められてから日が浅く、桑に対して実害があるか否かは現時点では不明である。ただし、急速に生息範囲を拡大しているうえに、在来ハゴロモ類と同じく飼育期間中の蚕に対して病原菌を持ち込む可能性も否定できないので、今後注意すべきところである。

紋羽病の発生も散見されたが、本病は土壤中に生息する糸状菌によるもので、完全な防除は困難である。桑園には余裕がある状態なので、経費と労力をかけて土壤消毒～改植するよりも、他作物に切り替えるなどの対応でよいものと思われる。萎縮病の発生は東北地方のみに限られていたが、山形では抵抗性品種への改植が必要と判断されるレベルの発生状況であった。

（３）問題点と今後の対応

今回の調査の範囲では、改植が必要と思われる圃場は山形の一か所のみであったが、必要とされる萎縮病抵抗性品種「ゆきあさひ」の苗木の入手は現状では困難である。新規養蚕農家または団体では新植の計画もあり、さらに今後新たな参入促進を図るため、接木苗を安定的に生産できる体制を構築・維持しておくことが重要であると考えられる。

今回の桑園調査では新規養蚕農家中心に桑栽培技術に未熟な面がみられたこと、桑栽培技術を指導できる組織及び人員が現状では存在しないことを踏まえ、今後大日本蚕糸会主導で全国レベルの講習会を参集しやすい時期に開催する必要があると考えられる。さらに桑栽培状況は地域により異なる点も多いため、現地指導についても継続して実施することが重要であると思われる。



画像１ 樹齢 50 年以上の桑株：福島県



画像２ チュウゴクアミガサハゴロモ

生糸の元素分析結果について（中間報告）

（独）農林水産消費安全技術センター

技術研究課 高嶋、坂井田、森田

1. 元素分析

国産生糸 8 試料、中国産生糸 2 試料、ブラジル産生糸 2 試料について、元素分析を実施した。現時点で 10 元素（Li, Na, Mg, P, Ca, Cr, Mn, Rb, Sr, Ba）について安定した測定が可能であった。各元素濃度のプロットは以下のとおり。国産／中国産または国産／ブラジル産で差異が見られる元素があることが判明している。

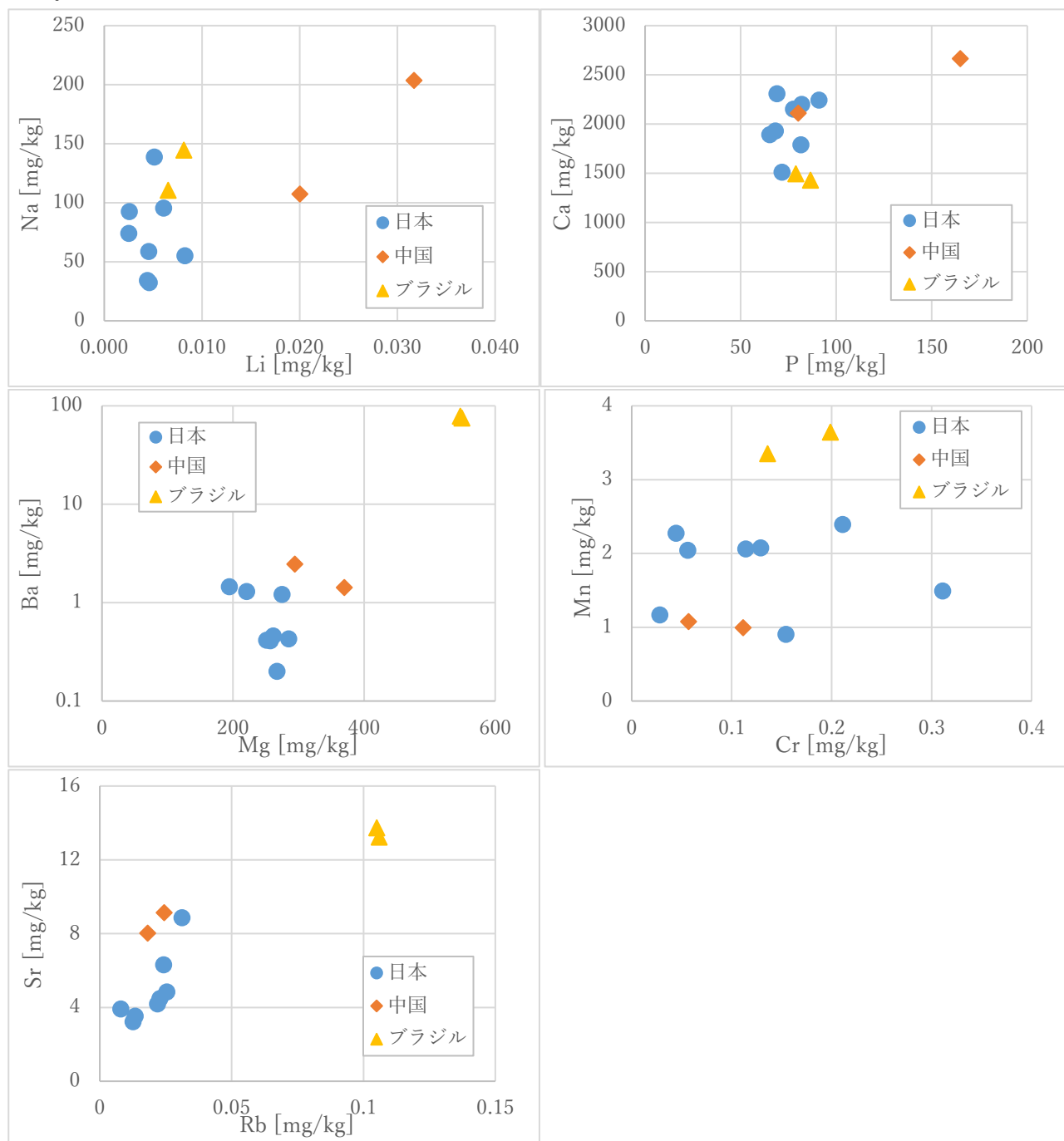


図1 生糸の元素分布

2. 軽元素分析

(1) 炭素安定同位体比分析

国産生糸8試料、中国産生糸2試料、ブラジル産生糸2試料について、炭素安定同位体比分析を実施した。1試料につき4点の分析結果をプロットしている。

国産、外国産ではっきりとした差異は見られなかった。

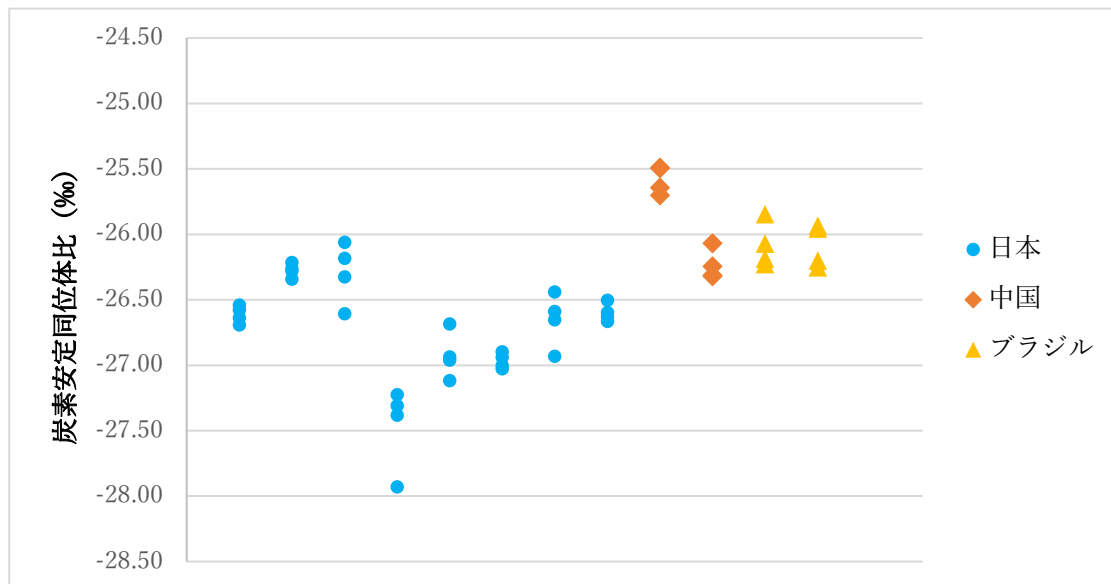


図2 生糸の炭素安定同位体比 (No. 2の試料を除き試料番号順)

(2) 酸素安定同位体比分析

装置のトラブルにより現在測定準備中

参考

(試料：黄色 (NO.2) の試料は今回含まない)

NO.	製糸国	製糸産地	繭産地	品種	蚕期	備考	24.11月発送	25.7月発送	
1	日本	山形県	山形県	春嶺鍾月	春			○	25KT-01
2		—	山形県	春嶺鍾月	春	乾燥繭を分析		○	25KT-02
3		群馬県	群馬県	春嶺鍾月	春		○24KIT-01		25KT-03
4			群馬県	ぐんま200	春		○24KIT-04		25KT-04
5			群馬県	なつこ	夏		○24KIT-09		25KT-05
6		長野県	埼玉県	錦秋鍾和	晩秋			○	25KT-06
7			長野県	錦秋鍾和	晩秋			○	25KT-07
8		愛媛県	愛媛県	改良あけぼの	春			○	25KT-08
9			愛媛県	改良あけぼの	晩秋			○	25KT-09
10	中国	山東省	不明	不明	不明	日照海通絲業有限公司	○		25KT-10
11		山東省	不明	不明	不明	日照海通絲業有限公司		○	25KT-11
12	ブラジル	サンパウロ州	不明	不明	不明	BRATAC	○		25KT-12
13		サンパウロ州	不明	不明	不明	BRATAC		○	25KT-13

製糸工程の GOTS 認証の検討

1. 背景及び目的

近年、自然環境や労働環境等へ配慮した生産体制の構築が世界中で進展している中で、自然環境・労働環境への適切な配慮や、製品のトレーサビリティが確保されていることを認証する制度が広がっている。

国内絹製品業界の GOTS 認証取得の動きとしては、丸八生糸（株）が繊維商社として GOTS 認証を取得し、タイの製糸工場と契約し、オーガニックシルクブランドを創設している。

<2023 年 4 月 5 日プレスリリースより>

Sustainable Material である SILK の価値を高め、環境・社会・人により一層のメリットをもたらす国内初のオーガニックシルクブランド「CONSCIO™」（コンシオ）を展開。

<認証ラベル>



※製品の CONSCIO™オーガニックシルク
使用率を 100～70%程度に規定

このような動きを踏まえ、全国シルクビジネス協議会が令和 4 年度に「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」、令和 5 年度に「有機生糸の生産及び表示に係るガイドライン」を策定している。

これらのガイドラインでは自己認証方式を基本としているが、欧州に製品を販売しようとする企業にヒヤリングしたところ、GOTS 基準等に基づく第三者認証が必須との声があった。また、製糸工程後の製織・染織等の工程についてはガイドラインもない状況となっている。

このような中で、国産生糸を使用した絹製品について“有機“認証を受けようとする場合、GOTS 基準に基づく認証の取得が現実的な選択肢となる。GOTS 認証は、製糸、製織、染色等の各工程の事業者が取得する必要があるが、今回の検討ではこのうち製糸工程で GOTS 認証を取得する場合に参考となる知見を集積することを目的とする。

2. 検討方法

GOTS 認証機関の一つであるエコサート・ジャパン（株）に依頼し、蚕糸科学術研究所の製糸工程を例に、認証所得の可能性と認証に必要な書類や施設の整

備等について知見を得るため、7月17日に蚕糸科学技術研究所において検討会を開催した。この検討会を通じた模擬検査の結果として、エコサート・ジャパン（株）から別添の検査レポートを受領した。

なお、今回の検査レポートについては以下の点に留意。

- ① 今回は模擬検査であるため、通常の実査項目の 1/10 程度かつ主要な項目を厳選してコメントしていること。
- ② このレポート中のチェックリスト項目にある、“N” の表示は、不適合ではなく、“適合するための対応が必要の可能性ある”ものであること。

3. 検討結果を踏まえた GOTS 認証の活用可能性

今回の模擬検査結果を踏まえれば、規程類を整備すること等により、製糸工場において GOTS 認証を取得することは十分可能と考えられる。今回得られた知見をもとに、以下に製糸工程における GOTS 認証の手引きを示す。

製糸工程における GOTS 認証の手引き

1. GOTS 認証の概要

GOTS (Global Organic Textile Standard) は、オーガニック・テキスタイルの世界基準で、IFORM (International Federation of Organic Agriculture Movements Organics International) の基準に基づき有機生産された繊維原料を用いて、環境に配慮し、かつ社会的責任を遵守した方法で製造された繊維製品を認証するための基準である。

GOTS は、Global Standard (本部：ドイツ) という非営利団体によって運営されている。認証は、GOTS に承認された認証機関によって行われる。

名称	GOTS (Global Organic Textile Standard)
本部	ドイツ デュッセルドルフ
設立年	2002年
日本における認証機関	・エコサート・ジャパン ・コントロール・ユニオン・ジャパン ・IDFL ジャパン ・インターテック・サーティフィケーション・ジャパン
GOTS の概要 	・GOTS は、繊維製品を製造加工するための国際基準で、オーガニック・テキスタイルの世界基準である。 ・GOTS は、オーガニック繊維から作られた繊維製品を供給する加工業者と製造業者のために、世界の主要なマーケットに受け入れられる「オーガニックの認証」を可能にしている。 ・オーガニック繊維製品が、消費者の信頼を得るために必要な国際的な認証システムとして、世界の繊維製品の生産流通業界で認められつつある。

2. GOTS 認証取得のメリットと費用

GOTS の認証マークを製品に添付することにより、環境志向に対応した製品であることを訴求でき、付加価値向上が期待できる。

また、認証マークを取得した事業者は、環境配慮や社会的責任を遵守している事業者として、取引先からの信頼向上が期待できる。さらに、GOTS 認証を取得した企業であることによって外国人雇用が円滑にできたという例もある。

認証費用は、認証取得時と毎年更新時にその都度 40 万円程度必要。

3. 認証を受ける必要のある事業者

繊維製品に認証マークを付すには、製品の製造業者、卸販売業者、貿易会社は、すべての業者が認証を受ける必要がある。加工のみを行う下請け会社は認証を受ける必要はないが、実地検査の対象となる。小売業者は認証を受けなくてもよい。

エコサート・ジャパンでは日本の中小企業も取得しやすいように、企業グループで取得できる仕組みを構築している。グループで取得すれば、認証コストを抑えられる。これを利用すれば、養蚕、製糸、製織等の川上から川下の企業グループで一つの認証を取得することも可能。

4. 認証の方法

認証は、書類審査と現地検査で行われる。

書類審査では、管理関係の規程類（製品の品質管理規程、環境管理規程、雇用契約や賃金等社会規範に関する規程等）の確認及び製品に関する記録システム（Input-Output のバランス、トレーサビリティ、根拠伝票類等）を確認する。

現地検査では、保管倉庫、製造ライン、安全装置、避難経路、労働環境、化学物質管理等について確認するとともに、従業員へのインタビューも行う。

5. 製糸工程の GOTS 認証取得に当たっての留意事項

ア. 原料繭

①製糸工程の GOTS 認証を取得するには、まず原料繭が有機生産したものでなければならない。有機原料を仕入れていることが確認できること（TC: Transaction Certificate）が必要。

②使用する有機繭の生産は有機養蚕の基準を満たしていることが必要。そのためには世界的（IFOAM（International Federation of Organic Agriculture Movements Organics International））に認められた国の基準等に基づく認証が必要。日本の「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」はこれに入っていないため、米国の有機基準（NOP）等に沿って認証が行われることが必要。

<欧米の有機繭生産の基準>

<EU>

有機生産及び有機生産物表示に関する規則 (Reg. (EU) 2018/848)

- ・ 2018 年に旧規則 (Reg. (EC) No. 834/2007) を改正。2021 年から適用。
- ・ 対象範囲に蚕繭 (下記) を追加

ANNEX I

OTHER PRODUCTS REFERRED TO IN ARTICLE 2(1)

– silkworm cocoon suitable for reeling

<米国>

全米有機プログラム (NOP) (7CFR Part205)

Code of Federal Regulations (CFR)

– Title 7 Agriculture

– Subtitle B Regulations of the Department of Agriculture

– Chapter I Agricultural Marketing Service (Standards,
Inspections, Marketing Practices),
Department of Agriculture

– Subchapter M Organic Foods Production Act Provisions

– PART 205–NATIONAL ORGANIC PROGRAM

- ・ 桑の栽培：有機作物生産基準を適用
- ・ 蚕の飼育：有機畜産生産基準を適用

③原料繭の管理については、仕入れ年月日、仕入れ先別にケースに入れて管理されており問題ない。ただし、ロット番号を決めて付すようにすることが必要。なお、防虫剤については、化学薬剤が繭に付着するような場合は不可。

イ．揚返し薬剤

①繰糸工程で使用する揚返し薬剤については、中国やインドの生糸も GOTS 認証を取得しており、使用できるものもある。蚕糸科学技術研究所で現在使用している KR-100 (株式会社コーエキ製) は承認薬剤リストには掲載されていないが、今後承認される可能性はある。

(参考) 承認化学物質 (Approved Chemical Inputs) を検索する Web サイト
<https://global-standard.org/find-suppliers-shops-and-inputs/approved-chemical-inputs/database/search>

* 界面活性剤は Free Text の欄に、”surfactant” と入力して検索。

ウ．環境配慮・社会的責任遵守

- ①環境保全や労働条件については、日本の法律に従っていれば GOTS 認証の基準を十分満たす。ただし、給与水準は最低賃金よりはやや高い（１～２割）水準が求められる。
- ②環境管理については、ISO14000 と同様であり、責任者を決めてリスクマネジメントを行うことが必要。
- ③取水・排水の基準は、各自治体の基準に沿っていれば問題ない。自治体によっては厳しいところもあるし、緩いところもある。
- ④廃棄物の処理については、危険物とか薬品の処理がきちんに行われているかを確認する。
- ⑤温室効果ガスの排出状況もみる場合もある。
- ⑥社会的責任の観点では、雇用契約、労使関係（トラブルがないか）、労働環境・労働安全をみる。また、ガバナンス面では贈収賄問題がないかや知的財産の保護が適切かについて確認する。
- ⑦施設内の安全対策については、物理的に改善するのは難しい場合は、安全教育や注意喚起の張り紙等の運用面で対応可能。その際、担当責任者及び事故が起こった際の連絡先を明記することが求められる。
- ⑧環境や安全についてポリシーを宣誓することが必要。その際にどのような組織でどのように取り組むかを明確にする。労働安全推進委員は必須。

DESCRIPTION OF THE AUDIT

Company name		蚕糸科学技術研究所
Name of signatory(ies)		
Address of the inspected site	Street	稲敷郡阿見町飯倉1053
	Post code - Town/City	茨城県
	Country	JAPAN

Auditor(s)	ASANO/AOSHIMA
-------------------	---------------

Standard(s)	TEXTILES_GOTS

Activity(ies)	Manufacturer
Status	Non-committed

Audit date		2025-7-17
Duration of the audit	Start time	13:40
	End time	15:00
Type of audit		Approval
Audit modality		On site
Controlled points	Products	x
	Commercialisation and Marketing/Communication	
	Raw materials/Ingredients and accessories	x
	Auxiliaries	x
	Formulas/Compositions	x
	Partners (subcontractors, handlers, sites)	
	Handling	
	Subcontracting (non-committed)	
	Process/Cleaning	x
	Environmental management	x
	Flow control/Traceability	x
	Product quality	x
	Social criteria, governance and Due diligence	x
	Sampling	
	Contract review	x
	Non-conformities follow-up	
	Audit conclusions	x

Function of the interviewed persons	NA
Number and types of persons interviewed <i>For example: number of women/men, number of managerial/non-manual staff, etc.</i>	NA
Documents checked	NA

Auditor's signature	 
Manager(s)'s signature	

Code	Checklist text	Check key point	Y	N	Comment to checkpoint(所見概要)
1	General data, scope and inspection conditions (GOTS)	declare correctly its activity/know the applicable requirements /provide all documents, information, and access to the facilities necessary for the inspection,/he production units, subcontractors and manufacturers identified		X	仮検査であるため、製品リスト・原料リスト・製造工程図・管理マニュアルは提出されていません。 実地検査では、原料の保管室、製造ラインにアクセスが出来、施設(広さ及び構造)においてはGOTS製品の保管及び製造に適切であることを確認しました。
2	Declaration files (GOTS)	products correctly declared/composition and materials are respected	X		オーガニック繭で生糸を製造する予定です。その他の原料の使用はありません。
3	Labelling/packaging and marketing documents (GOTS)	labels and product categories are respected/packaging (plastic or paper) are compliant/ description on invoice and delivery documents are sufficient/communication files are conformity		X	ラベル、包材は未確定のため、今回の検査の対象外です。
4	Production (GOTS)	production procedure/chemical inputs/machine oil/separation and prevention of contamination at all stages		X	製造工程は繭⇒製糸⇒生糸の流れです。 いままで主に受託検査のため、製糸をしていました。特に製造マニュアル、具体的な指図書などは作成されていませんでした。 製糸工程に界面活性剤を使用しますが、これはGOTSに承認されていません。
5	Purchase, Certification and Quality (GOTS)	organic raw materials have valid certificates /procedures, instructions, recordings and documentary controls allowing the origin, nature and quantities of organic raw materials processed by the unit to be traced/purchase invoices and delivery notes been supplied/organic ingredients guaranteed on the invoice and delivery note/		X	GOTSに認めるオーガニックの繭の認証書は提出されていません。 今回の仮検査では、原料の仕入れ伝票・インボイス・受入れ記録などを確認しませんでした。

6	identification, separation (GOTS)	procurement/all areas and substances are protected from contamination/pesticides or other chemical input/		X	繭は品番毎にボックスで適切に保管されています。保管室及び製造現場に禁止資材を置かれていません。よって、混合または汚染されるリスクは低いと考えられます。製糸工程にお湯が使われています。オーガニック製糸に切替の際、このお湯の交換があるかどうかを今回は確認していませんでした。
7	Traceability (GOTS)	a traceability system throughout the audited entity's process/batch No, quantities/Organic quality/raw material and final product balance		X	原料、製造工程、最終製品に特にロット番号を付けていません。現状では、品種及び日付で追跡できる状況になっています。
8	Risk assessment, residues testing (GOTS)	risk assessment/GMO/pesticide test/quality test/take sample		X	リスクアセスメントについては、今回の検査で確認していませんでした。
9	Environmental management (GOTS)	environmental and chemical management policy formalized in writing and distributed to all employees/management at waste, discharges, energy consumption, GHG, effluent treatment to waste water before discharge into surface waters		X	廃水廃棄物処理は日本法律に基づき行っています。環境管理マニュアルは作成されていません。エネルギー削減目標は策定されていません。GHG評価は行っていない。

10	Minimal social criteria (GOTS)	set up a social compliance management system/forced or bonded labour / join or form trade unions/freedom of association/ safe and hygienic working environment /prevent accidents and injury to health linked to working conditions/regular health and safety training/a senior representative responsible for health and safety/he wages and benefits comply at least with applicable national legal standards or benchmarks/calculate Living Wages for their respective operations/working hours comply with current legislation/the Overtime hours non-compulsory, voluntary and consistent in terms of quantity and remuneration/no evidence of discrimination		X	製造現場はきちんと整理整頓されています。 製造機械設備に安全防護(安全装置)はありません。適切なメンテナンス及び従業員への安全教育によって現場の安全性を確保しています。 今回の仮検査では就業規則、安全教育記録、賃金、勤務時間などの確認はしていません。 従業員へのインタビューも実施していません。
11	Governance and Due Diligence (GOTS)	Due Diligence management process/take care that their partner farmers applies decent social conditions/provide training on integrity regulations and inform about sanctions for non compliance		X	今回の仮検査では確認していません。

少量多品目生産システムの検討

1. 目的

国産生糸を使用した商品開発について、商品販売担当者に意見を聞いたところ繊維素材の展示会等で国産生糸を使用した生地 of 展示を見たことがないという声があった。また、工芸作家に聞いてみたところ、国産生糸を使用した製品づくりには関心があっても自分の製品づくりにあった国産生糸の生地が手に入らない、生地見本を見たことがないという声があった。

一方、今後、国産生糸の歴史的、文化的価値が理解されれば、別品ブランドとして、又は記念品や贈答用として国産生糸を用いた製品を使用したいというニーズの掘り起こしは可能と考えられる。このような商品ニーズは少量であっても国産生糸を使用することを条件としており、国産生糸の強みが最大限活かされる販路となると考えられる。

以上を踏まえると、国産生糸の販路拡大には商品企画販売者や工芸作家等はその素材となる生地見本を提示して商談を進めていくことが有効と考えられる。そこで、このような販路拡大に際して、生地 of 供給をはじめどのような課題があるか、実際のケースを想定して具体的に検討する。

2. 国産生糸を使用したスカーフの作成を想定した具体的な課題の検討

(1) 生地見本の作成

国内製糸会社から国産生糸を購入し、製織会社に依頼して生地見本を作成。

<使用生糸> (碓氷製糸 (株) に依頼)

ぐんま 200 21 中及び 27 中 それぞれ 2 kg

<生地見本> ((有) 大原織物に依頼)

未精錬オーガンジー生地

生糸	織り方	サイズ (cm)	数量 (枚)
21 中	二重	100×180	1
	花柄	100×180	1
	チェック	100×180	1
	縞	100×180	1
	二重平織	50×165	2
	平織	50×160	2
	平織	100×180	1
	平織	30×130	3

精練生地（経糸に国産生糸、緯糸に麻、ウール、綿等を用いた生地）

No.	経	緯	絹割合(%)	他繊維割合(%)
1	絹糸21中	絹糸210中絹糸21中	100	-
2	絹糸21中	真綿	100	-
3	絹糸21中	リネン(麻)150中	50	50
4	絹糸21中	ウール94中	52	48
5	絹糸21中	綿60中	54	46
6	絹糸27中	真綿	100	-
7	絹糸27中	真綿	100	-
8	絹糸27中	ウール94中	58	42
9	絹糸27中	ウール94中	58	42
10	絹糸27中	綿60中	60	40

○少量でも生地製作を発注できることを確認。

○製織業者の生糸評価：21 中については、中国、ブラジルの生糸に比べて織度にムラがあり、生地のタテ方向に筋が入るところがある。

○生地コストについて、原料生糸価格＋整経・製織コストで試算。

（２）生地見本の提示と意見聴取

○展示会でバイヤーの評価を聞く。

（展示会）

第２回 Tokyo Textile Scope 2026 Autumn/Winter

会期：2025 年 11 月 12 日(水)～14 日(金)

会場：東京都立産業貿易センター 浜松町館

○工芸作家等に生地を見せて、商品化の可能性を聞く。

（３）国産生糸を用いたスカーフの製品化の可能性と課題

○国産生糸生地を用いた製品化の可能性の検討。

「蚕糸の日」記念イベントの企画（案）

I 日時 3月13日（金）

II 場所 東京ウィメンズプラザ ホール

III 内容

1. 開会及び主催者からの趣旨説明 13:00～13:30

蚕糸業の現状と新たな蚕糸業対策について

（その中で国産繭・生糸サポーター制度（通称「国産繭・生糸応援団」）の創設を紹介する。）

2. 記念講演 13:45～14:45

「式年遷宮と国産生糸」（仮題） 神宮式年造宮廳神宝装束部 宮本史典氏

3. パネルディスカッション 15:15～16:15

<テーマ案>

「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」

<趣旨>

・養蚕農家が減少し、製糸会社も稼働率が低下。主因は、繭の価格が生産コストを大幅に下回っているため。

・一方、消費者は、着物や絹製品が国産の生糸で作られているものと思っている人がほとんど。

・日本国内では様々な蚕品種から様々な繰糸方法で多様な糸を生産することができる。また、文化財の修復においても国産生糸は不可欠。

・蚕糸業の現状や生糸の歴史的・文化的価値について情報提供し、多くの方々の理解を得て、国産繭・生糸製品が合理的な価格で購入していただける環境をつくるのが肝要ではないか。

<パネリスト候補>

芦澤洋平氏 養蚕農家・JSS 代表

合瀬宏毅氏 アグリフューチャージャパン代表理事理事長

工藤 操氏 消費科学センター企画運営委員

高林千幸氏 岡谷蚕糸博物館館長

〇〇〇〇氏 東京文化財研究所（調整中）

<コーディネータ候補>

國見裕久氏 東京農工大学名誉教授

4. 閉会 16:30

広報資料

蚕糸業の現状やその歴史的・文化的価値に関する広報資料として、以下を検討中。

(1) 「カイコからのおくりもの」の改訂版の作成

子供にもわかる内容で、カイコの飼育方法、養蚕の歴史、繭の利用等について解説した冊子。A5 判 30 ページ程度。

(掲載項目)

カイコのふしぎ
カイコを育てよう
シルククラフト
養蚕の歴史
繭の利用

(2) 国産繭・生糸について説明する冊子の作成

大人向けの資料として、蚕糸業の現状、国産繭・生糸の歴史・文化的価値や特長について解説した冊子。ボリューム・体裁は検討中。

(掲載項目)

蚕糸業の現状
蚕糸業の歴史・文化
国産繭・生糸の特長

- ・多様な蚕品種を背景に特色のある繭があること
農研機構のジーンバンク 700 種以上
- ・用途に適した生糸を生産する繰糸技術があること
- ・遺伝子換え技術など最先端の技術が津陽できること

日本の絹シルクを 守りたいから

国産繭・生糸 サポーター 募集

サポーター
登録料

無料

古代から日本の伝統・文化とともに歩んできた
我が国の蚕糸業が“危機的状況”です。

今行動しなければ、

日本の絹は無くなってしまう・・・

というところまで差し迫っています。

この状況を理解し、我が国の蚕糸業を

応援いただける方を募集しています。

全国の
養蚕農家数
134戸

養蚕農家
2/3が
70歳以上

養蚕農家
労賃時給
550円



この活動について

国産の絹糸は、日本の暮らしと文化を支えてきた大切な素材です。

この活動は、その価値を理解し応援する「サポーター」を募り、情報発信やイベント紹介を通じて、絹の魅力を広めていきます。

国産生糸を使用した絹製品に対する需要が高まることで、日本の絹がある未来になります。ぜひご参加ください。

サポーターになると

< 情報を受け取れる >

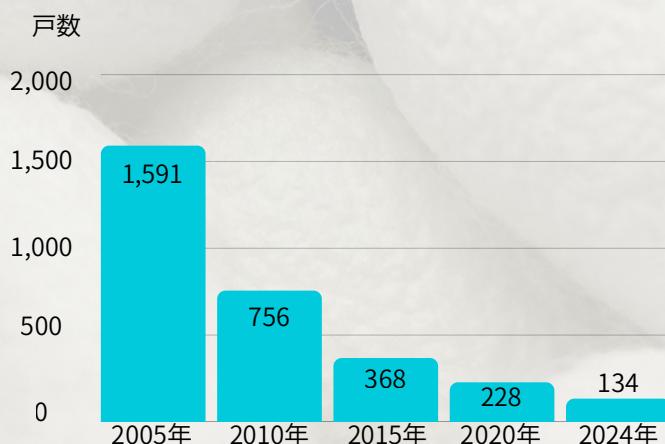
- 国産蚕糸関連のイベント・講演会等の情報
- 蚕糸に関するWEB記事や文献
- シルクレポート・統計データ等

< 情報を届けられる >

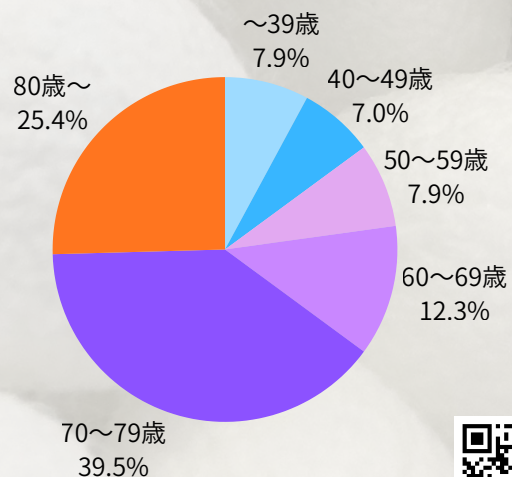
サポーターの皆さんが企画・参加するイベントを紹介します。

- 例えば
- 蚕糸に関する博物館での展示企画
 - 子どもたちがカイコにふれる体験会
 - 国産の絹を使った製品の展示会 など

全国養蚕農家数



2024年養蚕農家年齢構成



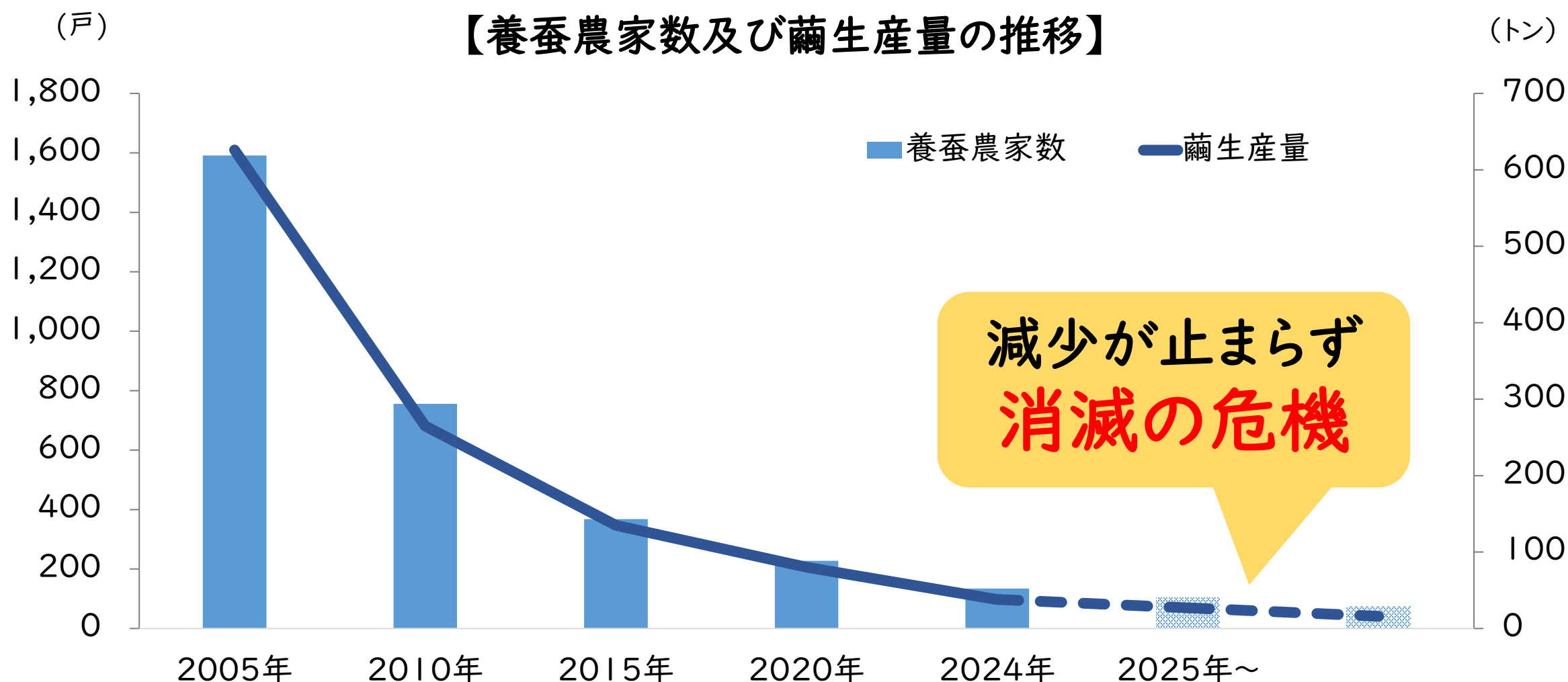
詳しくはこちらから ▶



存亡の危機に直面する我が国の蚕糸業

1. 養蚕農家数及び繭生産量

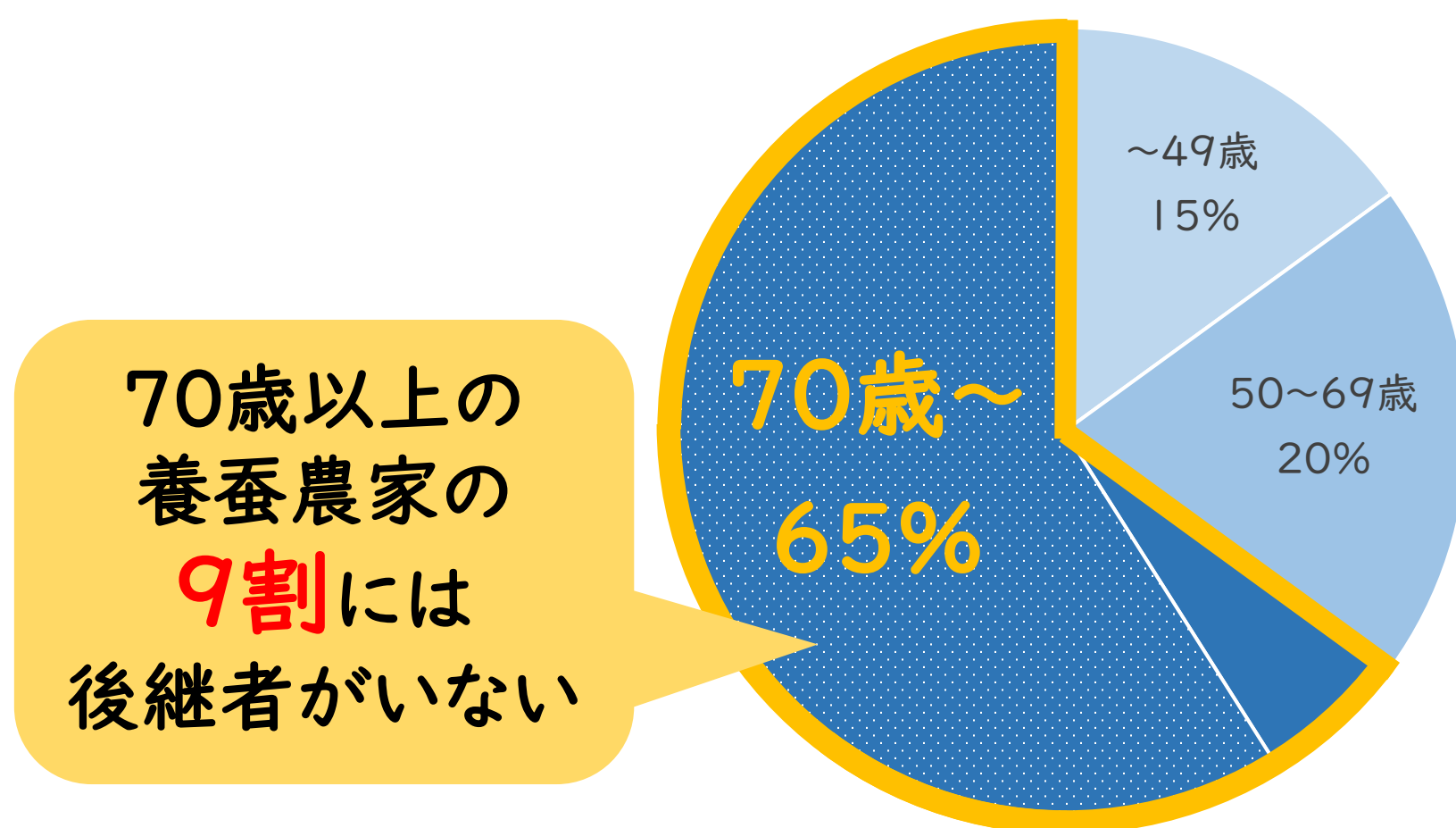
繭生産の戦後のピークは1968年（昭和43年）で12万トンもありましたが、それ以降、養蚕農家数、繭生産量は減少が続いており、直近（2024年）の養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トンとなっています。



2. 養蚕農家の高齢化と後継者の不在

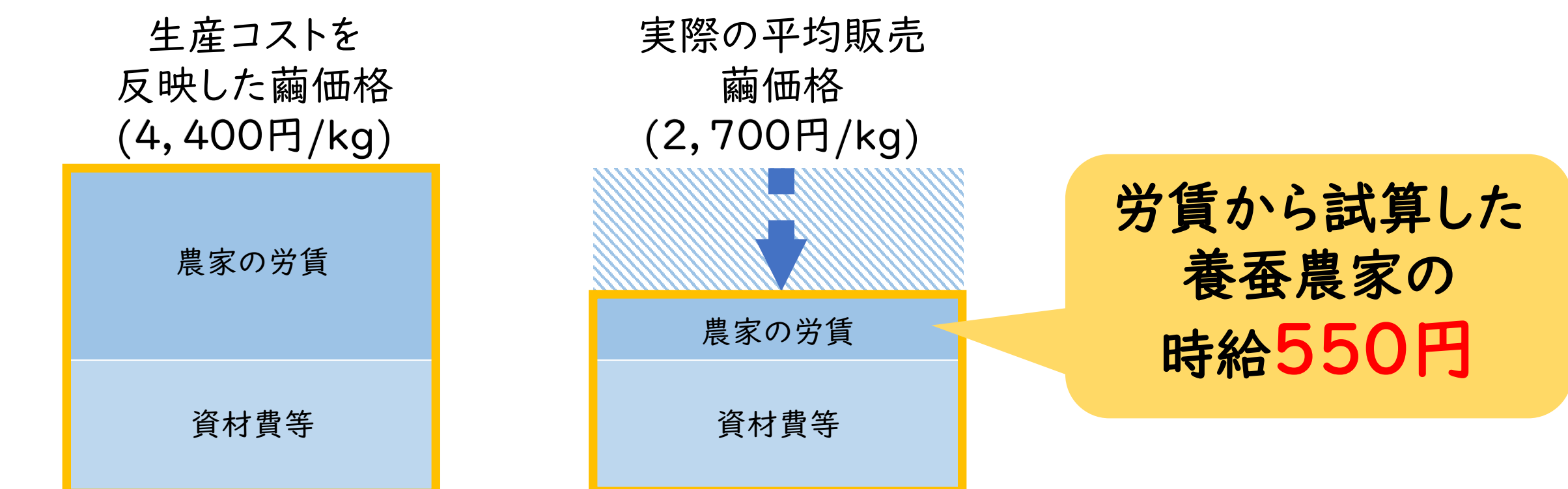
養蚕農家の経営主は70歳以上が全戸数の約2/3を占めており、それらの農家の9割には後継者がいません。

【農家の経営主の年齢構成】



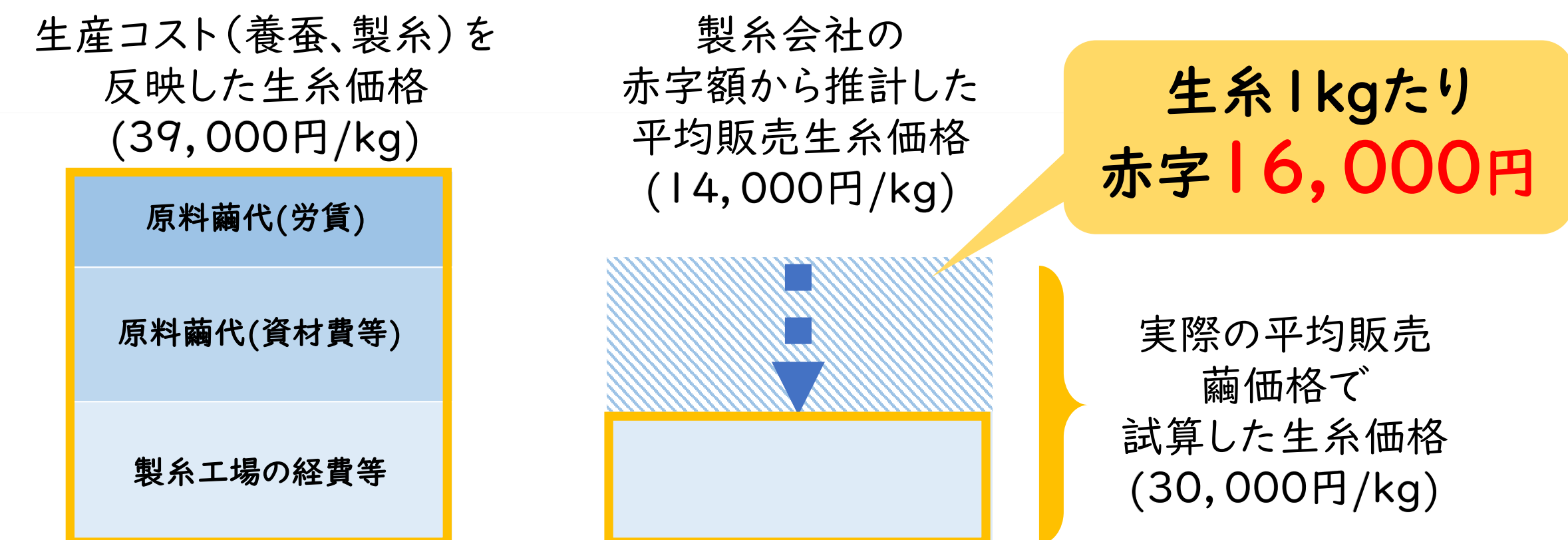
3. 日本の養蚕業が衰退してしまった原因

平均的な繭の販売価格から計算すると、養蚕農家の時給は約550円にすぎません。このため、養蚕農家の後継者が育たず、また、新たに養蚕に取り組もうという農業者の数も極めて少なくなっていました。



4. 我が国の製糸業の厳しい経営状況

国内製糸を生産している製糸工場は現在わずか5社となってしまいましたが、製糸部門は全て赤字で、生糸を1kg売る度に平均で約16,000円の赤字となっている状況です。



● 国内の蚕糸業が将来も存続していくために

**国産生糸の歴史的・文化的な価値を理解し、
国産生糸を使用した絹製品を
適切な価格で購入することを通じて、
日本の蚕糸業を応援していただくことが必要です。**